

## 1 平成 30 年度事業についての意見・感想

経営全般	<p>◎ 「研究事業」をはじめ、6つの事業を積極的に取り組んでいただき、それぞれの事業が教育現場や教育活動の大きな成果や支援に繋がっていることに敬意と感謝を申し上げる。</p> <p>◇ 県内の教職員の資質向上と指導力向上をめざし、日々、創意工夫してくださることに対して心から感謝申し上げるとともに、PDCAサイクルを重視し、意見や感想、助言等を基に改善を図ろうとする誠実で真摯な態度に心から敬意を表す。</p> <p>◇ 学校が抱える喫緊の教育課題に対応する研究・研修事業が一層充実しているように感じられる。このことは、研修受講者の講座に対する評価にも表れている。</p> <p>◇ 今年度も今般の教育課題を的確に捉え、教育現場のニーズへの対応としての研究、研修、相談・支援の各事業がバランスよく展開されていると思う。特に研修講座全体の 99.8%が、「大変よい」+「よい」の高い評価となっており、昨年度からも上昇している。すでに研修の満足度（入力指標）についてというよりは、むずかしい課題であるが、指標として実践の変化や児童生徒への影響などの出力指標との関連を考慮すべき段階ではないか。</p> <p>地域の研修拠点として頼もしい存在であり、感謝申し上げる。</p> <p>◇ いろいろな課題があることを知った。充実した取組みがなされ素晴らしいと思う。</p>
研修事業	<p>◎ 総じて、研修講座は、講座数、内容とも、受講ニーズに十分応えるものであったと思う。授業改善や山積する教育課題に対応する上で、大いに教員の助けになっていると思う。</p> <p>◎ 学校（教員）のニーズに応じた研修（講座も出前サポート等も）を充実して頂いていることは、大変有り難い。</p> <p>◎ 研修講座への「電子入力システム」への移行は、大きな改善と捉えることができる。</p> <p>◎ 探究型学習に関する専門研修「探究型学習推進講座」の充実が図られ、参加者数、評価も良好である。</p> <p>◎ 公金等管理に係る研修機会の確保に加え、山形県教員「指標」の周知に配慮いただき感謝申し上げる。</p> <p>◇ 山形県教員「指標」を踏まえて策定された「山形県教員研修計画」に基づく研修により、各キャリアステージにおいて身に付けるべき資質・能力に応じた研修体系が整いつつあると感じる。</p> <p>◇ 山形県教員「指標」に基づいた「山形県教員研修計画」が策定され、キャリアステージに応じた研修が整備されたことには大きな意味があると思う。特に、ベースとなる基本研修で、フォローアップ研修の充実（初任者研修）、ステージアップ研修の新設（中堅教諭等資質向上研修）は大きな前進だと思う。</p> <p>◇ 「指標」に基づき、多岐にわたる研修の機会を提供していただいております、その苦勞は並大抵のものではなかったのではないかと推察する。現場からの声を伺っても、大変勉強になったという評価が多数を占めている。ご苦勞様。その中において、特別支援とチーム学校の視点がさらに増すことを期待したかった。</p> <p>◇ 受講者数やアンケート集計を見せていただくと、充実した研修が行われたことがうかがえた。参加者のニーズや意識に沿って研修を企画・運営することは難しい面が多いことと思うが、全体評価が好評価であることから、成果があったと思われる。</p> <p>◇ 全国的に著名な講師を招聘しての魅力的な講座が実施されており、ありがたい限りである。反面、時期や期日によって（校務もあり）参加が叶わないところが多い。</p>

	<p>そこで、これまでも取り組んでいただいているが、講座の録画資料のリストをご紹介いただくなどで、積極的なカリサが利用の機会をつくっていただければありがたい。</p> <p>◇ 「資料3：平成30年度県教育センター研修講座受講者数及びアンケート集計」について、ほとんどの講座が「A+B=100%」で、大変良好な評価だと思う。敢えて指摘させていただくとすれば、「小・義務初任者研修」「中・義務初任者研修」についてである。いずれも回を重ねるごとに、「A」が減少し「B」が増加していった。さらに、「中・義務初任者研修」については、4回目に2名が「C」と評価した。（また「小・義務初任者研修」の4回目に「アンケート未記入・未提出」者が6名もいたことも気になる。）</p> <p>これらのことは、講座に対する満足度が少しずつ減少していったと言えそうである。講座の内容は、初任者の教育現場での経験を踏まえて、それぞれの時期に必要なことを用意していただいているにもかかわらず、そのような集計結果が見られたということは、回を重ねるごとに変わっていく初任者のニーズに対応することの難しさを改めて感じさせられた。</p> <p>ただ、初任者の研修が充実するとともに、よりよい実践が進むことにより、日を追うごと資質・能力が向上していったからこそ、県教育センターの研修に対する要求度が高まっていったことが原因とも考えられる。（もしそうだとすれば、それは、むしろ望ましいことであるとも言えそうである。）</p> <p>このことは、どのように解釈・分析するかによって今後の対応策が違ってくるものと思われる。もし、アンケートの自由記述に記されている内容から、初任者のニーズについて把握できるのであれば、それらをできる限り考慮していただければ幸いである。</p> <p>◇ 「平成30年度県教育センター研修講座受講者数一覧《専門研修》」について、定員がどのような根拠・意図で定められているのか、私自身は承知していないので、充足率の高低だけで判断できないものと思われるが、講座によって充足率の開きが大きすぎるように見える。</p> <p>大幅に定員を超えても実施できた講座があるようなので、例えば、教育センター内で複数の講座開催により、キャパシティの関係から定員内で開講しないと不都合が生じる場合については定員を明記すべきであろうが、仮にそうでない場合があるとすれば、定員を設定しなくても良いのではとも思った。</p> <p>ところで、地域ごとに（4地区で）開催していただいた講座について申し上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保護者との連携を深めるための教育相談基礎講座」は、地域によって受講者数が随分違うことが不思議に思えた。仮に保護者との良好な関係づくりに課題が生じた場合には受講したくなるから、開催の時期にもよるのかもしれない。</li> <li>・「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり講座」は、どの地域でも受講率がかなり低い状況である。「出前サポート」において、このテーマが取り上げられているケースが多いのであれば、講座を廃止して、「出前サポート」での対応に限定してもよいのではないか。</li> </ul> <p>◇ 探究型学習の評価についての研修が進んでいるようだが、道徳の評価・教科化に係る研修のニーズはどうか。</p>
<p><b>研究事業</b></p>	<p>◎ 研究成果の発信という点では、探究型のハンドブックができあがり、現場としての抛り所になったのではないかと感謝。</p> <p>◎ 探究型学習推進の手引やカリマネ等にかかる説明資料等は大変有り難い。特に、県学調を基にして説明資料を作成頂いているので、学校にも説明しやすい。</p> <p>◇ 29年度から研究事業として行われている、『小学校英語教育に係る学校ニーズへの対応』については、各学校の関心が高い研究だと思う。来年度作成予定のハンドブックには、多彩な実践事例が紹介されることをご期待申し上げます。『探究型学習の</p>

	授業づくり』についても、授業づくりのみならず、カリキュラムマネジメントの面からも各学校からのニーズが高いと思う。次年度も継続研究していただきたいと願っている。
相談・支援事業	◇ インクルーシブ教育の推進にあたり、様々な研修講座や出前サポートも実施しておられるということだが、併せて指導者の増員についても考えていく必要はないのかと思う。
その他	◇ 「カリキュラムサポートプラザ」は学校現場が活用しやすい支援・研修であり大変有り難い取組みである。特に出前サポートの充実に期待する。

## 2 平成31年度への取組みについての意見・感想

経営全般	<p>◇ 再来年度の小学校学習指導要領の完全実施、大学入学共通テストの実施、教員の働き方改革など、教育課題や教育現場における新たなニーズへの対応が求められると思う。多忙化の中で、教員の学ぶ機会は実際には限られていると思う。センターが中心となった情報提供の機会は、大きな学びの場であると考え。自ら学び続ける教員の育成とその意欲を高め、専門的な知識や技能を有する教員の地位の確立に向けて、つねに新しい内容を取り入れてほしいと思う。</p> <p>◇ 新しい時代に向けた「研究」や「研修」を模索中。過渡期と思われるので、長期展望に立って、乗り切ってほしい。働き方改革PTとの連携・協働も視野に入れてほしいと願うと共に、学校にとって、よりよい情報の提供ができたらと思う。前例踏襲にとらわれずに、「何のために」「何をするのか」を念頭に置いて「0」ベースで議論して進めてほしい。県教育センターへの期待は大きい。</p> <p>◇ 様々な課題に向けた取組みの充実に期待する。</p>
研修事業	<p>◎ 今年度は、初任者研修の後補充対応が十分にできず、初任者配置校に大変な苦労をおかけした。次年度は、研修の工夫で後補充講師の数を減らす工夫をしていただけるとお聞きした。大変感謝である。</p> <p>◇ 平成30年度事業の反省点を踏まえて計画されているので、さらに、研修の質的向上が図られることと思う。小・中学校共に、新学習指導要領告示から2年目になり、小学校においては、教科書の見本等も閲覧可能になることと思う。先生方の意識が一層高まる年であると思うので、「学校でやってみたい」「考え方がわかった」など、参加した先生方が手ごたえを感じることが出来る事業になることを期待申し上げる。</p> <p>◇ OJTニーズの高まりや多忙化により教員が校外に出にくい状況を考えると、校内研修がますます重要になってくる。形式的なものにしないためにも、教育センターによる校内研修のサポートを検討いただきたい。研修情報や研修ノウハウの提供、優良事例の紹介などをお願いしたい。</p> <p>◇ フォローアップ研修が今後日数も増えさらに充実されていくことが考えられる。その際、特別支援・生徒指導に係る研修を位置付けて頂けると有り難い。県で掲げている「担任力」を身に付けた研修の充実に今後ともお願いしたい。</p> <p>◇ 高等学校においては、探究科・探究コース設置2年目を迎え、課題研究が本格的にスタートする。ところが、普通科、共通教科の教員の多くにとって課題研究は未知の領域である。この新たなニーズに焦点を当てた研修を検討願う。</p> <p>◇ 公金等管理に係る研修については、今後、中堅職員に対する機会の確保についても検討いただきたい。</p> <p>◇ 山形県教員「指標」に基づく新たな研修計画の策定・実施に関して今後課題があればお知らせいただきたい。</p> <p>■ 年度初めの講座参加の申込については、申込締切日まで期間が短いことや様々な校務の見通しが立たないことなどで、研修の機会を逃していることが多々ある。締切を過ぎたものについては、「学校旅費対応での参加」を認めてもらえれば、</p>

	<p>学校でも研修の機会を得ることができ、センターでも充足率を確保できるのではないかと考える。</p> <p>■ 小学校においては、プログラミング教育がスタートするわけだが、それにしても「小学校におけるプログラミング教育実践講座」の受講率が低すぎる。</p> <p>「資料4：平成30年度県教育センター事業の進捗状況」には、「問い合わせが複数あり、電話対応や出前サポートで各学校のニーズに対応している。」と記されているので、各小学校で独自に研修会等を実施しているのであれば良いのだが、個人的に話を伺っている限りでは、十分に対応できる状況には至っていないように思われる。新年度は完全実施1年前なので、ぜひ定員を増やして、「研修講座の目玉」としてアピールしていただくようお願いする。</p>
研究事業	<p>◇ 県教育センターは、最新情報も含めた「知」のシンクタンクである。現場の課題を的確に捉えることからスタートし、その課題解決に向けた示唆に富む研究成果の発信を期待したい。国の動きに同調することは大切だが、山形の実態に合わせた地道な研究を現場は望んでおり、その期待に応えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな課題として、生徒指導の力を育てることがあげられる。生徒指導提要すら読んでいない若手教員、ベテランと呼ばれる教員も増えており、危機感がつのる。授業の充実に機能する生徒指導の論理をしっかりと学ぶべきである。</li> <li>・また、探究型学習の中で、しっかりと基礎基本が身につけていく過程についても、現場において混乱があるのではないかと。実態を分析してほしい。</li> <li>・さらに、喫緊の課題として、学校における教職員の働き方についての視点も研究に値するのではないかと。是非、本庁PTと協働で取り組んでほしい。</li> </ul> <p>◇ 高等学校においては、平成30年度から探究科と普通科探究コースが設置され、大変多くの受検生が志願した。高い目標に積極的にチャレンジしようという生徒の高い志に応えるために、設置校では中核教員を中心にして研修を行っている。この研修の成果を広く本県の探究型学習の推進につなげていくためにも、教育センターとしての機能を発揮して、成果の普及にあたっていただきたい。</p>
相談・支援事業	<p>◇ 特別支援教育に係る研修を充実して頂いていることは大変有り難い。特別支援学級担任だけでなく、通常学級の先生方のニーズ対応が大事になる。（サテライト講座に発達障がい新設など）</p> <p>◇ 今後10年程度はベテラン教員の大量退職への対応が「研修分野」でも強く求められると思う。特に以下の3点に対する育成・養成が市町村教委も県教委も急務であると考えている。具体的な手立てを講じていきたいものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①言語通級指導教員の育成・養成</li> <li>②特別支援教育の相談員（W I S C I Vの検査並びに面談ができる教員等）の育成・養成</li> <li>③教育理念や教育技術の適切な継承を目的とした若手教員の研修</li> </ol>

### 3 県教育センターへの期待や要望

経営全般	<p>◇ 今後も、学校のニーズ、国の動向などを注視しながら研修・研究を進めていきたい。</p> <p>◇ 教育県山形の新たな構築と新しい時代の教員育成のために、長期的な見通しをもった、挑戦的な取組みをこれからも期待している。</p> <p>◇ 山形県の教育発展のために今後ともよろしくお願ひしたい。</p> <p>◇ 山形の教育を担う、優秀で意欲ある若者に教員を目指して欲しいと思うが、現実的には教員志願者が減っている。「志願」段階は、高校や大学での仕事であるが、教育センターとして何かできることはないか。例えば、教職の魅力ややりがいを伝えるような指導資料の作成など。『山形教育』の「若い教師のメッセージ」の企画を活用すれば面白いものができそうである。</p>
------	--

	<p>◇ 各市町村教委単位でのイントラネットやウェブページのトップに、教育センターのバナーを貼ることなどで、教職員個人での閲覧を増やす方法を検討してほしい。その際に、研修についての情報ページに跳ぶような工夫があれば尚ありがたい。</p>
<p><b>研修事業</b></p>	<p>◇ 教員の大量退職・大量採用時代を迎え、初任者研修による始発期、中堅教諭等資質向上研修による充実期の研修の重要性が増している。指導主事による温かい指導・助言と学校との連携した研修を充実させ、受講者の資質・能力とやる気を一層高めて欲しいと思う。</p> <p>◇ 中には、時宜を得た良い講座と思えるのに充足率が伸びないものも見られ気になる。アンケートとは別途に、何人か抽出して受講者の生の声を聞いてみる必要はないか。</p> <p>◇ かなりの業務量になっていることは重々承知しているが、出前サポートについては、引き続き、予算の確保・事業の存続をお願いしたい。</p> <p>◇ 「がん教育」は、新学習指導要領解説にも示され、各校で移行対応が望まれるため、「がん教育」推進講座の新設を要望する。</p> <p>◇ 県PTA連合会では、研修大会を開催し、会員の研修を深めているが、この研修会が教職員の研修のお役に立てないかと考えている。ぜひ検討していただければと思う。ちなみに、31年度は、東北研究大会が南陽市で、34年度は、全国研究大会が山形県で開催される予定である。そのほか、毎年、県内各地で郡市毎に研修・研究大会が開催されている。</p> <p>■ 大量退職大量採用が続く中、会議でも申し上げたが、教員の力量を上げるために、新たな研修の仕組みの創設を含めて可能な限り、システムを動かす努力を期待したい。例えば、新採研修の2年目研修・3年目研修は、「5年経験者研修」「中堅教諭等資質向上研修」を含めて、10年ほどのスパンで個々の「ウイークポイントの強化」や「得意分野の伸長」をねらった実のある長期研修となるような形にしてほしいと願うところである。数年前から、文科省の見解は、「各都道府県で工夫した研修の実施で構わない」としているのではないかと記憶している。基本研修は必要ではあるが、画一のメニューに終始した研修内容を見直し、個々の必要感を満たす研修を提供して下さる仕組みをお考えいただきたい。</p> <p>■ 初任研、5年研、中堅研のあり方についても議論していただいているが、継続してより良い山形方式を模索していくように願いたい。特に、学校におけるOJTがなかなか成り立たない状況もあり、その解決の方策も研究してほしい。</p> <p>■ 初任者が、将来に渡ってどのような研修を受けていくのかについては、説明を受けて理解していると思うが、何年か経験のある教職員のうち、どの時点でどのような研修を受けることになるのかについて理解している者は結構少ない状況がある。より明確な課題意識を持ちながら計画的に教育実践を進める中で研修を受けるようになればベターではないかと考えるので、各校において研修について説明する機会を設けてはいるが、貴所においても、例えば「山形県教員研修体系全体図」に載っている研修が具体的に何年経験した者が対象となるのかについて一目で分かるような（新たな）資料の作成や提示をしていただければ幸いである。</p> <p>■ （引き続き）初任者研修の抜本的な見直し、検討について</p> <p>(1) 採用人数の増加に伴う研修体系を引き続き検討していく必要がある。大量退職・採用や産育休者の増加に伴い、講師不足は必須である。平成31年度実施の「初任者2人に対して1人の非常勤講師（小学校）」という研修体系が機能するかが懸念事項である。教職員課とのさらなる連携を基にした体系整備が急務である。退職者も採用者も多い村山地区にとっては大きな課題である。</p> <p>(2) 非常勤講師未配置校への対応を考えておく必要がある。完全配置ありきの研修計画ではあるが、誰が（どこが）どの時期にどのように対応するのかとい</p>

	<p>う見通しが必要。</p> <p>(3) 後補充非常勤講師に頼らない研修体系を考えることはできないのか。 →13日間の研修を午後開催として、校内対応とする等</p> <p>(4) 初任者研修がA・B2グループ(小学校)開催することで、研修日が2倍になる。授業研究研修(各事務所研修)が14日間(7日×2)となり日程確保も対応も非常に困難をきたし負担が大きい。事務所では初任者研修にだけ対応しているわけではないので…。(県センターも同様であるが…。)</p> <p>(5) 抜本的な見直しに必要なのは、講師をどのように配置するかではなく、初任者をどのように育成していくか、そのためにはどのような研修体系が必要かを踏まえた講師配置が大事である。目的が反対にならないようにしたい。</p> <p>■ チーム学校のキーワードのもと、学校事務職員を含めた学校体制づくりが必要。そのためには、学校事務職員の学校経営参画のイメージや役割のイメージが欠かせない。先進県の事例や山形県としてのめざす学校の姿を描きながら、研修内容を定めていく必要がある。すぐに研修に取り組めないとしても、研究部門において、先進事例を集約することは可能ではないか。あるいは、実践を発信している学校事務職員もいることから、研修部門において、講師にするとか、インタビューを行いまとめを発信するなど、できることから取り組むべきと考える。</p> <p>■ 以下のことについては、県教育センターへの希望・要望というよりも、県教育委員会への期待・要望である。</p> <p>「事務に従事する」から「事務を司る」と職務規定が明確化された事務職員の研修の充実が求められている。若手事務職員が増えていく中、チーム学校の有力メンバーである事務職員の資質向上にかかわる研修を充実させていかなければならない。山形市教委では中核市移行に伴い移譲される教職員研修の中で、事務職員の職務研修を複数回予定している。県外を見渡すと、事務職員研修の充実を実施する都道府県教委が増加している。本県の研修体系を担っている県教委においても、「教員研修」から、例えば「チーム学校研修」へと対象幅を広げ、学校事務職員の研修について英断を下すことを願っている。</p>
<p><b>研究事業</b></p>	<p>◇ 学力向上に向けた小中高を貫く実践研究は、これまで本県で手がけたことのない大きなテーマとなっているが、校種間の垣根を越え、それぞれが連携することで大きな成果を期待したい。</p>
<p><b>相談・支援事業</b></p>	<p>◇ 過去に、特別支援学校の研究に関する研修講座があったが、すぐにスクラップされたようである。研究主任を対象とした学校研究の在り方、進め方などについて研修するとともに、各特別支援学校の研究について情報交換を行う機会が全くないので、貴重な研修講座だと思っている。このような研修講座を復活させることについて検討いただきたい。</p> <p>◇ 年1回以上実施の文科通知もあり、「SOSの出し方教育」推進講座の新設を要望する。いじめ等、児童生徒の人間関係形成や対教諭との関係形成など生徒指導面で重要だと感じる</p>